



CTF通信

集う・遊ぶ
学ぶ・働く

第96号

2011年3月

発行：CTF松阪

子供たちをネット犯罪から守るために

警察庁ではこのほど平成 22 年中の出会い系サイト等に起因する事犯の検挙状況を公表しました。

それによると、出会い系サイトに起因する事犯の検挙件数が減少した反面、コミュニティサイトに起因する事犯のそれは、前年に比し増加しています。

「出会い系サイトが危ない」と知った子供たちは、交流の場をコミュニティサイトに移しています。しかし、このコミュニティサイトも決して安心・安全ではありません。

コミュニティサイトではフィルタリングによる閲覧制限がかけられていて、フィルタリングに加入した携帯電話からは接続できないようになっていますが、モバイルコンテンツ審査・運用監視機構（EMA）が認定したサイトは閲覧制限の対象から外されます。

平成 22 年上半期の検挙件数のうち 5 割超が EMA が認定したサイトに絡むという事実から、警察庁は情報を定期的に EMA に提供することとなりました。

また、子供が使用する携帯電話にはフィルタリングの利用が義務付けられているにもかかわらず、その利用率は小学生で約 8 割、中学生約 7 割、高校生約 5 割に止まっています。

フィルタリングでネット利用の危険性がなくなるわけではありませんが、少なくともより安全になります。

子供たちがネット犯罪に遭わないために、フィルタリングの利用とともに、学校や家庭での教育やルールづくりが求められます。

警察庁広報資料は下記 URL

<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h22/pdf02.pdf>



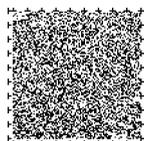
蒲生氏郷公顕彰会(氏郷とお茶)

氏郷の主君織田信長が天正 10 年 6 月 2 日早朝に光秀の謀反により本能寺で横死した事は知られている事ですが、その前日の天正 10 年 6 月 1 日には、同じ本能寺で「名物茶会」を開催していました。光秀の謀反を知った氏郷は信長の居城安土城に行き妻子保護して、父とともに居城日野の中野城で明智軍と対峙して信長の妻子を守った。

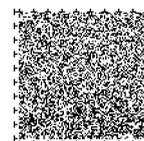
その功績で羽柴秀吉から松ヶ島 12 万石を与えられ、その後天正 16 年には飯高郡矢川庄四五百森(よいほのもり)に新城建築を行い松坂城と定めた。

茶道に関しては、信長も秀吉も氏郷も千利休に師事していましたがその利休が秀吉の逆鱗に触れ天正 19 年(1591 年)2 月 28 日、切腹を命じられ、自害しました。氏郷はその災いが千少庵(利休の娘婿・養子)に及ぶのを恐れ会津に匿い城内に茶室「麟閣」を造り蟄居させた。文禄元年(1595 年)秀吉の赦免状が出ると、氏郷は徳川家康と連名で「少庵召出状」を出して少庵を京に呼び戻し千家を復興させた。その恩義に報いて、表千家宗家「不審庵」初釜の席では、床に「少庵召出状」を軸にして飾る事を慣わしとしている。

参宮道



今月号は文字数が多いので、第 1 ページと第 2 ページ、第 4 ページに SP コードを 2 個付けてあります。第 1 ページと第 2 ページ、第 4 ページでは、先に左下の SP コードを、次に右下の SP コードを読んでください。





アルゴリズム (プログラムで解決する方法を考える)

ここまでで、変数、関数、制御構造について説明しました。これで数当てゲームのプログラムのうち JavaScript で書かれている要素はほぼ網羅できたことになります。処理の流れを追う作業はかなり楽にできるようになっているはずですが、プログラムの流れを読み取れるようになったら、いよいよ次のステップです。そのためにどうしても欠かせないのが「解決したい問題をプログラムとしてどのように表現するか」を考えることです。これはプログラミングの入門段階でぶち当たる最初の関門です。

問題を解決する方法を、プログラミングの用語で「アルゴリズム」と呼びます。アルゴリズムはプログラムとして表現できるだけでなく、それを実行し終わったときに必ず問題が解決できているものでなければなりません。

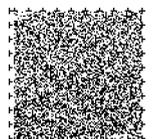
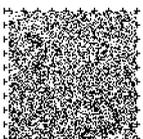
例えば制御構造の項で while と if を組み合わせる例を紹介しました。とても単純なものですが「テキストから空行を取り除く」という問題を解決するアルゴリズムの一つです。数当てゲームでは、プレイヤーからの挑戦に「正解」「大きい」「小さい」のいずれかの受け答えをしなければならない、という問題を二つの if 文を組み合わせるアルゴリズムで解決しています。

このくらいの単純な問題であれば、ちょっと頭をひねれば解決できますし、いくつも異なるアルゴリズムも考えられると思います。しかしそれらをバカにせずに、一つひとつ実際にプログラムにしてみることで、プログラミングのスキル向上につながるのです。

アルゴリズムを考えたら、次はそれを流れ図(フローチャート)などの絵に描いてみましょう。正式な流れ図は書式が決まっていますが、仕事で使うものでないなら自己流がかまいません。通常の処理と条件判断による分岐を区別して描く程度で十分です。

アルゴリズムを絵にしたら、そのアルゴリズムを使って処理を実行するプログラムを書いてみましょう。プログラミング上達の秘訣はとにかくプログラムを書いたり読んだりすることだとよく言われます。確かにプログラム言語の文法をまず理解しなければならないのは当然ですが、それだけではなかなかプログラムを書けるようになりません。実際に動作するプログラムを書いてみない限り、変数や制御構造の本当の使い方が理解できないのです。

つづく



活動報告

[2月]

障がい者対象個人向けパソコン講座
(1日、8日、15日、22日)

訪問ITサポート
(10日、16日、24日(2件))



活動予定

[3月]

障がい者対象個人向けパソコン講座
1日、8日、15日、22日
各 9:30~11:30
松阪市障害者福祉センターにて



松阪食べある記

大にしょうどん店

今月は鈴の森公園北西隣にある“大にしょうどん店”を紹介します。

ここのうどんは自家製麺で、二日間寝かせて粘りと腰をつけたとのことなのでほどよい硬さです。

一番の人気メニューは、お客の半数以上が注文するという「カレーうどん」です。鰹だしに昆布、さらに数種類の魚から丁寧に取ったというだしが旨味を広げています。

写真は、カツ・カレーうどん(上) 950円と
エビ天・おぼろ梅うどん(下) 950円

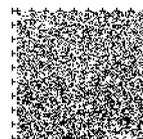
所在地：松阪市川井町772-15

電話：0598-26-3315

営業時間：11:00~14:00

17:00~20:00 (OS:19:45)

定休日：毎週水曜日



今月は、先月号に続き、北勢地域でまちづくりの仕事をしているH.H様から、「健康」についてのご投稿をいただきました。

H.H様、長期間にわたる連載ありがとうございました。

今月のエッセイのテーマは、ズバリ「健康」についてです。毎年、正月に帰省する度に思うことがあります。それは健康の有難さです。というのも、親戚やご近所に新年の挨拶などをしていると、病気の話ばかり聞きます。私の両親もご多分に漏れず、数種類の薬を服用しており、病気の知識だけは目を見張るものがあります。私に関しては、今のところは大きな病気や怪我はした事がないのですが、一度だけ「死」を予感したことがあります。

それは大学に入って3年目の春でした。当時、通っていた大学から帰宅して、夕食を食べた直後に少し寒気を感じたのですが、余り気にしなかったところ、深夜から頭痛、高熱、下痢、嘔吐、体の震え、関節の痛みなどが一気に襲ってきて、その後の1週間は外にすら助けを呼びに行けない状態が続きしました(当時、自宅アパートには固定電話や携帯もありませんでした)。特に、自分の体温が水銀体温計の42の目盛りを超えた時には、さすがにヤバイと思いました。高熱で意識が朦朧とする中、とにかく水分を採り続けることと、元の体に戻るようと布団の中で震えながら祈ってばかりいました。その祈りが通じたのか、体温が1ずつ下がっていき、1週間後にはようやく外の空気が吸えるようになりました。いま考えると、原因は食中毒だったと思いますが、この経験で得た教訓とは、平凡な日常で忘れがちな健康の有難さについて、身を持って気が付いたということです。両親からもよく「お金は少々あればいい。健康が一番大事だ。」とよく言われます。最近はあまり徹夜も出来なくなり、体力の衰えを感じ始めている昨今ですが、健康維持には気を配りながら、今後も日々頑張っていきたいと思っています。

今月で最後の投稿となりますが、長い間、ありがとうございました。

H.H



編集後記

月初め弥生・雛祭りの頃は、まだまだ肌寒い日が続きます。この月は寒暖の差の大きい月です。奈良の二月堂のお水取りを境にして、少しずつ、水ぬるみ、春分の日を迎え、桜の花の便りが聞かれます。一年で一番華やぐ月じゃないでしょうか? 皆さんも、お花見を楽しみましょう。

CTF 通信第 96 号

2011年(平成23年)3月発行
発行者 ITを活用した障がい者支援NPO法人
CTF 松阪
発行責任者 川 口 保 美
住 所 〒515-0081
松阪市本町 2181-1
電 話 0598-21-7268
U R L <http://ctf.dip.jp/>

